

# 切っ子



文責 宮崎 淳子

## 全校朝会

2学期の、図書の本の貸出目標冊数は右のようになっています。図書事務の宇治川先生に尋ねたところ11月末頃で半分ほどの児童しか目標冊数を達成できていないということでした。そこで、全校朝会で次のような話をしました。

2学期の目標		
1.2冊	3.4冊	5.6冊
50冊	35冊	30冊

この本という字、他の漢字に似ていませんか？…そうです木です。この木の漢字は木の形から作られました。では、本はどうでしょう。これは、木の根本に印を付けた漢字です。根本（ねもと）という漢字は「こんぽん」とも読みます。こんぽん…というのは「物事がそこから出発する、一番大切なところ」という意味です。木の根本が細かったり、弱かったりすると、木がしっかり立っていることができませんね。だから、木の根本はとても大切なのです。

本という字は、「本物」「手本」「本当」「本質」という言葉に使われます。どれも大切なものを表していますね。

みんなが読む「本」は、私たちの「知識の本（もと）」になるのです。本から得たことや、感じたことが、今から学んでいく上での大切な本（もと）になっていくのです。ぜひたくさん読んでほしいと思います。



その後、私が小学校の頃に出会った大好きな本を紹介しました。「片足ダチョウのエルフ」という本です。切木小の図書室にもあります。この本で私は仲間の大切さや勇気、命の大切さを学びました。大人になった今でも、この本を読むと涙が出ます。子供たちにも「何年たっても好き」と言えるような本に出合ってほしいと思います。保護者の方にも、そんな思い出の本があるのではないかと思います。子供たちにぜひ聞かせてあげてください。

## 6年生卒業制作



今年度6年生は、卒業制作として、花壇を作っています。元育友会会長の前田勝久さんの協力により、コンクリート作りや、花壇にはめ込む陶板の絵付けなど、日常ではなかなかできない体験をしながら作っています。

### <陶板への絵付け>

岸岳窯三帰庵の富永祐司さんにご指導いただき、約13cm四方の陶板に絵付けをしました。子供たちは前もって描いていた下描きを基に描き始めました。表面がざらざらしていて難しそうでした。どの子も集中して丁寧に絵を描きました。そして、何と、校舎の前にある像（昭和36年度卒業生記念と記されたもの）は、富永祐司さんのおじいさんが作られたものでした。素敵な縁を感じました。





富永さんが一人一人に丁寧に教えてくれました。



こんな絵を描きました。焼き上がりが楽しみ。



## <花壇作り>

まずは、前田勝久さんから、コンクリートの材料・作り方・特徴などを教えていただきました。その後、整宏土建工業の方も指導に加わってくださり、花壇を作ることができました。



コンクリートについて、ユーモアを交えながら教えてくれました。



骨組となる鉄の棒を曲げました。丁度理科で習っている「てこ」の知識が役に立ちました。



材料を何度も運んでコンクリートを作りました。



コンクリートを型に流し込みました。バイブレーターという道具も使いました。

## イルミネーション点灯式

とても楽しみにしていたイルミネーション点灯式を12月9日(金)に行いました。この日に向けて前田勝久さんには、大変お世話になりました。

地域や子供たちのためにと、材料の確保や準備、等、たくさんのごことをしてくださいました。切木小の卒業生である先輩の姿は、子供たちの目標になるのではないかと思います。点灯式当日には、子供たち、保護者の方、地域の方と共に感動を味わうことができ、とてもうれしく思いました。このイルミネーションは切木の自慢の一つです。1月いっぱい、点灯されます。みなさんの心を癒してくれることと思います。



「子供たちの夢と希望を乗せて…」



6年生の子供が司会進行を行いました。

<学校教育目標> 自ら気づき 考え 実行する



左のQRコードから、切木小ホームページにアクセスできます。